

平成23年度

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
業務実績評価書（素案）

平成23年度業務実績評価（全体評価） 素案

全体として年度計画を順調に実施しており、概ね着実な業務の進捗状況にある。

- ・ 独立行政法人として3年目を迎えた23年度において、法人は、翌年度に控えた第一期中期目標期間の終了を踏まえ、中期計画の達成に向けた業務を着実に実施するとともに、第二期中期目標期間を見据えた取組にも着手した。
- ・ 病院部門においては、平成25年度に移転する新施設において、緩和ケア病棟の開設を予定していることから、新施設での業務を想定し、緩和ケア内科の標榜や緩和ケアチームの設置を行ったほか、在宅医療支援の取組である退院支援のための訪問看護の実施に向け、地域の関係機関との連携強化を図った。
- ・ 研究部門においては、医療と研究の連携（トランスレーショナル・リサーチ）のより一層の推進のため、両者の橋渡しを担う新たな部門の設置を決定し、臨床応用につながる研究の推進や、研究成果の活用について、法人が一体となって進めるための体制の整備を行った。
- ・ また、平成23年度は、前年度末の東日本大震災発生後、被災地への医師等の派遣や、災害発生による都内高齢者への影響調査の実施など、非常時における対応を行った。今後の災害発生に備え、これらの実績を活かしていくことが期待される。

2 都民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する事項

<高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供>

- 三つの重点医療（血管病、高齢者がん、認知症）において更なる体制強化に取り組んだ。特に、年度途中において心臓外科の医師の増員配置を行い、血管病医療の体制強化を行ったことは、その後の治療件数の増にもつながっており、評価できる。また、認知症疾患医療センターの指定を想定し、緊急度の高い患者を把握し適切な治療へつなぐため、精神保健福祉士等による初回面接を実践したことや、研究部門と連携し、認知症の診断法の確立に取り組んだことは、顕著な実績である。
- 救急医療については、患者受入れ件数が増加しており、前年度の実績を踏まえた様々な取組の効果が現れたものと考えられる。23年度に新設された救急診療部が中心となって、今後も救急患者の積極的な受入れに取り組んでいくことを期待する。
- 急性期の医療機関として、重症患者の受入れに積極的に取り組むとともに、早期退院に向けた院内外の連携を進めた結果、平均在院日数が前年度より短縮している。在院日数の短縮は、長期入院による患者負担の軽減に資するとともに、法人の経営面での効果にもつながるものである。今後は、退院支援の推進と併せ、患者の受入れについても、地域の医療機関との連携強化をより一層図り、病床利用率を向上させることが重要である。そのため、法人内に新たに設置した「医療連携委員会」が効果的に機能を発揮していくことを期待する。

<高齢者医療・介護を支える研究の推進>

- 重点医療に関する研究としては、高齢者がんの研究において、食道がんの診断法に関する研究成果が対外的な評価を得たほか、認知症の研究においても、アルツハイマー病の原因となる脳内のタンパク質の蓄積状況を画像解析と病理解析の両方向から研究した成果が、学会において評価を得た。こうした着実な取組に

より、研究所の存在感・存在意義が、専門家や研究者のみならず、広く都民にも認知されることを期待する。

- ・ 高齢者の健康長寿と福祉に関する研究においては、様々なアプローチにより、高齢者の健康増進や、社会的な支援の在り方について研究を進めている。特に、自治体と共同した研究や行政施策への提言など、都民への成果の還元が期待される研究に幅広く取り組んでいる。今後も、研究成果のより一層の活用を進めるとともに、病院と一体的にある研究所としての特徴を活かし、退院後の患者の療養生活に関する研究を行うなど、地域との関わりを持ちながら、高齢者が地域で安心して生活するための支援を進めてほしい。
- ・ また、成果を単年度で計れない研究については、中・長期的な視点で進捗を見ていくことも重要である。次期中期目標期間における年度計画の立て方について、検討が必要である。

<人材の確保、人材育成>

- ・ 職員の専門資格取得の支援を積極的に進めた結果、指導医、専門医、認定医等の資格取得者が増加している。認定看護師についても取得分野・人数を増やすとともに、法人として初めて専門看護師を配置するなど、病院としての専門性の向上に取り組んでいる。
- ・ 法人に派遣される都職員を徐々に減少させる一方で、固有職員の確保に着実に取り組み、安定した業務運営を継続していることは評価できる。引き続き、計画的な職員の採用と育成に努め、医療・研究分野と併せ、法人経営分野においても、専門人材の育成とノウハウの蓄積を進めてほしい。

3 法人の業務運営及び財務状況に関する事項

- ・ 業務の効率的かつ効果的な運営に向けて、診療報酬請求業務を委託から直営に

切り替え、請求業務のより一層の精度向上を図ったことは、地方独立行政法人ならではの機動的な経営判断である。この成果が今後の収入増に着実に結びつくことを期待する。

- このほか収入増の取組としては、新たな加算算定に努めるほか、外来患者の増などについても、地道ではあるが実績をあげている。また、SPDの導入による在庫の大幅な圧縮や、契約手法の見直しによるコスト減の成果も現れているが、今後はさらに、原価計算システムの検討を具体的な段階に進め、コスト管理体制を一層強化することを望む。
- DPCデータによる他病院との比較検討を行い、法人内で情報共有が行われている。平均在院日数の短縮の実績は、こうした検討の成果としても評価できるが、電子カルテ導入に伴う経営状況の分析とともに、今後、各種情報を経営面により具体的に活用していくことを望む。

4 その他

(中期目標・中期計画の達成に向けた課題、法人への要望など)

- 第一期中期目標期間の終了を控えた平成24年度は、目標達成に向けた総仕上げを行うとともに、第二期の中期計画の策定を行う重要な年度である。
- さらに、法人には、新施設への移転を安全・着実に進めるという重大な使命があり、非常に難しい業務運営を迫られる時期であると考えられる。
- このような状況においても、トップマネジメントのイニシアチブを強化し、法人が一体となって、医療の質の確保や、患者の期待に応える安定した業務運営に努めるとともに、第二期につながる発展的な事業に取り組むことを期待する。

平成23年度業務実績評価 項目別評価（素案）

1 都民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供

ア 3つの重点医療の提供

【評価項目1】(ア) 血管病医療への取組

評価： **A**

評価コメント

- 平成22年度の業務実績評価を踏まえ、年度途中から心臓外科の診療体制強化を図ったことにより、23年度後半での手術件数増加につながった。今後の実績増に期待する。
- センターが所在する医療圏には大学病院など高水準の医療機関が集中している中で、外科手術やその他の治療件数を着実に伸ばしていることは評価できるが、今後も治療件数を伸ばし続けることは容易ではない。高齢者専門病院であることを踏まえ、治療後の患者のADL（日常生活動作）の状態など、高齢者ならではの医療の質の評価基準を検討していく必要がある。
- 先端医療として期待される幹細胞を用いた心筋再生医療の実現に向け、研究部門と連携し研究に取り組んでいる。重症心疾患の治療法として、今後の研究成果に期待する。

【評価項目2】(イ) 高齢者がん医療への取組

評価： **A**

評価コメント

- 高齢者専門病院として、低侵襲手術を中心としたがん医療に取り組んだ。さらに、緩和ケアチームによる院内コンサルテーションの実施等、新施設での緩和ケア病棟開設に向けた準備を着実にいった。今後も患者に寄り添った医療の実現を期待したい。
- 外科的手術等による高度専門医療に取り組むと同時に、外来化学療法を充実させ、実績を大幅に増加するなど、国の政策目標でもある在宅医療の推進に寄与した。今後、大腸がん診療連携協力病院として、地域のがん医療の充実に益々貢献することを期待する。

【評価項目3】(ウ) 認知症医療への取組

評価: **A**

評価コメント

- 認知症疾患医療センターの指定に先立って、23年度当初から精神保健福祉士や臨床心理士による初回面接を実施するとともに、物忘れ外来の診療体制強化にも引き続き取り組むなど、患者対応は十分に行われている。今後は、認知症疾患医療センターとして、今まで以上に高水準の医療を提供するとともに、認知症に係る地域連携の推進、専門医療を支える人材育成という点での貢献を期待する。
- 生前にアミロイドPETを施行した脳剖検6例の画像と病理の対比に関する学会発表が、高い評価を得たことは、センターが目指すトランスレーショナル・リサーチ推進の具体的な成果であるといえる。今後も研究と医療の連携により、認知症医療の発展に寄与することを期待する。

【評価項目4】イ 高齢者急性期医療の提供

評価: **A**

評価コメント

- 在院日数の短縮を図り、限られた病床を有効に活用して、効率的に必要な医療を提供することが急性期病院としての役割である。そのため、地域の医療及び介護機関との連携強化、MSWの病棟担当制の開始など、在院日数の短縮に多方面から取り組み、実績をあげてきた点は評価できる。
- CCUにおける患者の受入れ数の増加やt-PA実施件数に見られるように、急性期病院として重症患者を積極的に受け入れている。引き続き重症患者の受け入れに努めていくことを期待する。

【評価項目5】ウ 地域連携の推進

評価: **B**

評価コメント

- 在宅医療を推進していくに当たっては、地域連携への地道な取組が重要である。そこで、患者退院時合同カンファレンスの実施や看護ケアセミナーの実施等地域連携の推進を図り、ネットワークの構築に努めたことは、退院支援に関わる重要な取組であり、評価できる。
- 患者の受入れにおいても地域連携は不可欠である。紹介率が昨年度より減少していること、病床利用率が下がっていること等の課題を踏まえ、患者受入れに向けたより一層の連携強化のため、「医療連携委員会」を新たに設置しており、今後の実績に期待する。
- 新たに板橋区乳がん検診を受託したことは、地区医師会との協力関係及び患者の増加という観点から評価できる。

【評価項目6】エ 救急医療の充実

評価： **A**

評価コメント

- 救急診療部の設置や一元的な病床管理を行う専門職員の配置など、救急患者受入れのための体制強化を図ったことにより、受入れ数を前年度より増加させたことは評価できる。
- 研修医を対象として、受入れ救急患者の症例検討を毎朝行うなど、救急診療部を研修医の育成の場として活用したことは、次代を担う医療人材の育成とともに、センターの救急医療体制の強化を図る上で有効な取組である。
- 救急患者の半数近くが入院をしていることから、受入れ数だけでなく、重症患者を積極的に受け入れているという点で、評価できる。

オ 安心かつ信頼できる質の高い医療の提供

【評価項目7】(ア) より質の高い医療の提供

評価： **B**

評価コメント

- 医療の質の向上に向け、DPCデータを活用した検討を行ったほか、新施設での電子カルテデータの活用を想定し、医療の質の指標の明確化に取り組んだ。今後、検証ワーキングにおける検証をもとに、医療の質の向上に具体的につなげていくことを望む。
- トランスレーショナル・リサーチの推進により、病院部門と研究部門との共同研究の推進が図られ、前年度に比べ、より幅広いテーマでの研究に取り組んでいる。今後とも医療と研究の一体化のメリットを活かし、質の高い医療の実現に向けた取組を期待する。

【評価項目8】(イ) 患者中心の医療の実践

評価： **B**

評価コメント

- 患者の立場に立った医療の実践という観点から、セカンドオピニオン外来の実施診療科を増やしたことは評価できる。
- 看護ケア外来や、緩和ケアチームによる全病棟のラウンドなどにより、患者の苦痛症状の緩和や生活の質の向上等、患者の立場に立った医療を実施している。今後は、こうした取組が患者にどのように受け止められているかを検証しながら、患者中心の医療を一層追求してもらいたい。

【評価項目9】(ウ) 法令・行動規範の遵守

評価: **B**

評価コメント

- コンプライアンス研修、情報セキュリティー研修等は、勤務時間内での実施であったため参加者数は前年度に及ばなかった。こうした基本的な研修を確実に職員に実施していくためには、研修の開催時間や手法を工夫していく必要がある。
- 研修受講後のアンケート調査を実施し、研修受講により理解が深まったと感じていることが把握されている。
- ホームページを利用しやすいように、文字やレイアウト、色使いなどの工夫を行うとともに、掲載内容の充実を図ったことで、アクセス件数が増加した。積極的な情報発信の成果として評価できる。今後、高齢者のホームページの利用が増えてくると思われるため、引き続き見やすいホームページ作りを求める。

【評価項目10】(エ) 医療安全対策の徹底

評価: **B**

評価コメント

- インシデント・アクシデントレポートを電子化したことにより、職員が情報を入手しやすい環境を整備した。情報の院内周知を促進する取組として評価する。
- ICTラウンドの定期的な実施により、感染管理の強化が図られている。個別指導により職員の感染管理に対する意識の向上が進められている。

【評価項目11】カ 患者サービスの一層の向上

評価: **B**

評価コメント

- 患者サービスの向上のための取組を企画・立案・実施する組織として「患者サービス向上委員会」が設置され、患者・職員からの提案等を迅速に実現することができる体制をとった。その結果、患者サービス推進月間を設け接遇の向上を図るなど、委員会での検討結果が具体的な取組につながっている。
- 物忘れ外来において初診枠を拡大し、患者の受入れを進めた結果、診察までの待ち期間を短縮したことも、患者サービス向上の成果である。

(2) 高齢者医療・介護を支える研究の推進

【評価項目12】ア 老化メカニズムと制御に関する研究

評価: **A**

評価コメント

- 老化のメカニズムや老化の制御に関する研究は、疾病の予防、診断法の開発、治療薬の開発等を支える基盤的な研究である。この基盤的な研究に着実に取り組み、国内外の学会誌等で新たな研究成果を積極的に公表している。
- 特に、アルツハイマー病の脳において増加するタンパク質の測定法を開発したことは、今後の認知症の診断法の開発につながる成果として期待できる。
- 心身への負担のない皮膚刺激方法がもたらす効果の一つである排尿抑制効果について、病院部門と連携して臨床研究に着手した。また、痛みの制御の効果についても臨床研究の方法を確立した点で、前年度までのラットを用いた研究からの着実な進展が見られ、評価できる。

イ 重点医療に関する病因・病態・治療・予防の研究

【評価項目13】(ア) 血管病の病因・病態・治療・予防の研究

評価: **B**

評価コメント

- 病院部門の重点医療である血管病医療に係る研究として、心疾患に対する細胞移植の研究など、臨床応用につながる研究に取り組んでいる。
- 23年度は、動物を用いた心筋再生の試験により、移植手術の有用性を確認するなど、研究に進展が見られる。
- 高齢者に特有な疾患のモデル細胞の構築を目指す研究は、今後の疾患の解明のための基礎となる点で意義がある。また、病院部門の手術患者の同意を得て採取した細胞を研究に活用していることは、病院部門と一体の研究機関である特徴を活かした取組として評価できる。

【評価項目14】(イ) 高齢者がんの病因・病態・治療・予防の研究

評価: **S**

評価コメント

- 食道がんの病理診断に有用な指標を明らかにし、学会で高い評価を得るなど、がんの診断法の開発に向け進捗が見られる。
- 高齢期の乳がんの研究については、従来の乳がん治療に用いられるホルモン剤による治療が高齢者の場合効果を発揮しにくいことを解明し、高齢者の特性に適合した治療法を提唱するなど、積極的な取組を行っている。高齢者にとって副作用の少ない治療法の提言を行ったことは、老年病に係る専門の研究機関としての存在意義を示す成果であり、評価できる。
- PETによるがんの診断薬の開発についても、臨床試験が順調に進んでおり、今後の診断への活用が期待できる。

【評価項目15】(ウ) 認知症の病因・病態・治療・予防の研究

評価: **S**

評価コメント

- PETを使った認知症の画像診断の研究については、診断薬の開発、前臨床研究を行い、新たな診断法の開発に向け着実に進展している。
- 研究所が先駆的に取り組んできた脳内のアミロイドの蓄積によるアルツハイマー病の診断法が国際的な基準となり、これまでの研究成果の意義が裏付けられた。今後、蓄積してきたデータや研究知見を国内外において有効に活用していくことが期待できる。
- 生前に撮影した脳の画像解析と、解剖した脳の病理解析の対比を行った研究については、両者に相関関係があることを解明し、国内の学会で高い評価を得ている。研究所のブレインバンクや、病院部門との連携が活かされた成果であり、今後、早期診断法の開発につながることを期待できる。
- ブレインバンクは、国際的に見ても貴重な生体試料を保有している。今後も生前同意などの仕組みにより資料の収集に努めるとともに、ブレインバンクの存在自体のPRを積極的に行っていく必要がある。

【評価項目16】(エ) 運動器の病態・治療・予防の研究

評価: **B**

評価コメント

- 高齢者の生活機能の低下や要介護の原因となる、筋肉機能低下に関わるバイオマーカーを特定するための研究を行い、病院部門のリハビリ科と共同で臨床研究に着手している。高齢者に特有の疾患である、加齢性筋肉減少症（サルコペニア）の診断法の開発につながる成果を期待する。
- 骨粗しょう症状の研究については、骨粗しょう症の発生に関連する遺伝子と破骨細胞の関係性を解明するなど、発病のメカニズムの解明において新たな知見を得た。今後、疾患予防・治療法の開発につながる研究の進展を期待する。

【評価項目17】ウ 高齢者の健康長寿と福祉に関する研究

評価: **A**

評価コメント

- 多様なアプローチにより、高齢者の健康維持や社会的支援の在り方について研究に取り組んでいる。自治体と共同した研究に積極的に取り組んでおり、行政施策への貢献度が高い点を評価する。
- 口腔機能の向上に関する研究については、運動機能向上、栄養改善と併せた包括的なサービスの有効性を提言し、国内の学会で高い評価を得たほか、介護報酬の改定に、提言内容が反映されたことは、研究成果の社会還元という点で意義のある実績である。
- 東日本大震災を受けて、都内の在宅高齢者に対する災害の影響について調査を行い、精神機能や日常生活能力の低下等の実態を明らかにした結果は、今後の災害時の高齢者支援に向け有効に活用されることが期待できる。

- 「みとりケア」は、介護施設にとって大きな課題である。地域の医療・介護に対する支援は、今後センターに期待される役割であり、研究成果を踏まえ、介護現場に積極的な働きかけが行われていくことを期待する。

【評価項目18】エ 適正な研究評価体制の確立

評価： **B**

評価コメント

- 研究の外部評価は、法人運営に外部からの視点を取り入れる取組であり、透明性の確保や、研究テーマの妥当性等を検証する手段として有効に機能している。
- 23年度から、評価の結果を翌年度の予算配分に反映させていることは、研究のモチベーション向上につながるとともに、研究成果の社会還元につながる取組であり、評価できる。

オ 他団体との連携や普及啓発活動

【評価項目19】(ア) 産・学・公の積極的な連携

評価： **B**

評価コメント

- 自治体からの受託や審議会等への参加を積極的に行う等、行政施策への貢献を行っている。
- WHOの協力研究機関として認定されたことを受け、研究成果を国内外に発信し、研究所の存在感を高めていくことを期待する。
- 産学公の連携による技術研究組合への参加は、研究成果を実用化につなげるために有効な取組である。今後の具体的な成果を期待する。

【評価項目20】(イ) 普及啓発活動の推進や知的財産の活用

評価： **B**

評価コメント

- 研究成果の論文掲載件数や学会等への発表件数は、目標件数を達成しており、着実に取り組んでいることがうかがえる。
- 病院部門と共同した研究を進めていることは、法人の特性を活かした取組である。医療と研究のより一層の連携を目指すため、「トランスレーショナル・リサーチ推進室」の平成24年度からの設置に向けて準備を行ったことは、医療・研究連携に向けた体制強化として評価できる。今後の具体的な成果を期待する。
- トランスレーショナル・リサーチの推進においては、研究成果を対外的にわかりやすく、かつ効果的に公表していくことについても、重要な役割として取り組むことを望む。

【評価項目21】(3) 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

評価: **A**

評価コメント

- センターに対しては、東京都からの派遣職員の解消が厳しく求められており、固有職員の採用と育成が重要な課題となっている。そういう中で、各職種において採用数が昨年度を上回り、人材確保に尽力したことがわかる。
- 専門医等の資格取得に対し、常勤医師のみならず後期研修医も支援の対象としており、支援対象の拡大を図ったことや、資格取得者の増加のうち、特に指導医が大幅に増加していることは、評価すべきである。
- 臨床研修医の育成に当たり、臨床研修医連絡会、救急医療に係る朝カンファレンスを実施するなど支援体制の強化が図られた。
- 職員の意識や意向を把握するための職員アンケートを実施したことは、課題の抽出に有効な手段である。今後は結果を分析し、改善等の取組に反映させていくことを望む。

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 効率的かつ効果的な業務運営

【評価項目22】ア 都民ニーズの変化に的確に対応した事業の実施と必要に応じた事業の見直し

評価: **A**

評価コメント

- 新施設での病棟開設に向け、23年度より緩和ケアチームを発足し、コンサルテーションを開始したことは計画性に優れ、また救急診療部の設置も含め、都民ニーズをしっかりと捉えた取組がなされており、高く評価できる。
- 高齢者が利用しやすいようホームページをリニューアルしたことで、アクセス数が昨年度に比べ増加したことは、センター認知度の向上に寄与した結果と捉えることができる。
- 情報提供のためパンフレットや広報誌等を定期的に発行し、積極的な業務結果の公表に努めていることは評価に値するが、作成した刊行物の配布対象や方法を工夫するなど、意識的にPR活動を行っていく必要がある。

【評価項目23】ウ 個人の能力・業績を反映した人事・給与制度

評価: **B**

評価コメント

- 人事考課制度について職員アンケートを行い、職員にモチベーションの向上をもたらしていることを確認している。こうしたアンケート結果を活用しながら制度の検証を行い、より良い制度にしていくことを期待する。
- 都派遣職員の解消を見据え、センター固有職員を対象とした昇任制度を確立し、初の昇任選考を実施したことは、健全なセンター運営を行う重要な要素であり評価できる。

【評価項目24】エ 計画的な施設・医療機器等の整備

オ 柔軟で機動的な予算執行

カ 経営に関する情報の管理、データ蓄積及び情報共有化の促進

評価: **A**

評価コメント

- 契約方法を従来の単年度契約や価格競争入札から複数年度契約や企画提案方式等に積極的に変更したことにより、質を担保しながら費用の節減を行ったことは評価できる。
- 研究部門の取組において、研究の評価を研究費の配分に反映する仕組みを構築したことは、研究員の目標達成意欲を向上させ、有益な研究成果を社会に還元することにつながるため、有効な手法であるといえる。

(2) 収入の確保、費用の節減

【評価項目25】ア 病床利用率の向上

イ 外来患者の増加

評価: **B**

評価コメント

- MSWの病棟担当制の導入や地域の医療・介護機関との合同カンファレンスの実施などにより、退院支援が進んでいるほか、術前検査センターやDPCベンチマークの活用により、前年度と比べ平均在院日数の短縮が図られている。早期退院に向けた支援であると同時に、診療収入増につながる取組として、評価できる。
- 外来患者については、乳がん検診の受託などの取組が患者増につながっている。
- 今後は、新たに設置した「医療連携委員会」における患者受入れの推進や、病床管理を一元的に行う取組により、入院患者の受入れ増、病床利用率の向上が実現されることを期待する。

【評価項目26】ウ 適切な診療報酬の請求

エ 未収金対策

評価： **B**

評価コメント

- よりの確な診療報酬請求業務を行うため、必要な人員配置を行い、従来の業務委託から、職員が業務を実施する直営方式への移行を行った。今後の査定率減少やDPCコーディングの適正化による収入増を期待する。

【評価項目27】オ 外部研究資金の獲得

評価： **B**

評価コメント

- 研究員一人当たりの研究費獲得額は前年度と比べ減少しているが、件数は増加しており、獲得額の合計も増加している。
- 平成21年度、22年度に全国で上位であった科学研究費補助金の採択率が大きく下がったことは残念である。今後の取組に期待する。

【評価項目28】カ 業務委託

キ コスト管理の仕組みづくり

ク 調達の方法

評価： **B**

評価コメント

- 診療報酬請求業務について、より適切に請求業務を行うために直営型に改めた経営判断は、独立行政法人ならではの柔軟で機動的な対応として評価できる。今後の具体的な成果に期待する。
- SPDシステムの導入により在庫を約80%圧縮し、効率的な在庫管理を行うようになったことは高く評価できる。

【評価項目29】3 財務内容の改善に関する事項

評価： **A**

評価コメント

- 新施設への移転を控えた時期にありながら、都派遣職員の解消を見据え、積極的な職員採用活動を行った。その中で、病院や民間企業の勤務経験者の採用を促進したことは、経営基盤の強化につながる取組であり、評価に値する。
- 診療報酬の新たな加算導入や積極的な外部研究費獲得など、収入増の成果をあげるとともに、SPDシステムの導入による在庫の削減やコスト減についても、具体的な成果が現れている。

9 その他法人の業務運営に関し必要な事項(新施設の整備に向けた取組)

【評価項目30】(1) 新施設で実施する新たな取組への準備

(2) 効率的な施設整備の実施

(3) 周辺施設等への配慮

評価： **B**

評価コメント

- 新施設開設に向け「開設準備委員会」を設置し、ワーキンググループで個別案件を議論しながら施設整備や運営面について方針の策定等計画的に準備を進めている。
- 近隣住民及び施設へ最大限の配慮をしていることや、工事業者と毎週工程会議を開催し連携体制を敷いていること、また期間的に厳しい工程の中で、計画的及び効率的に準備を進めており、工事を含めた開設準備の進捗状況は概ね順調である。